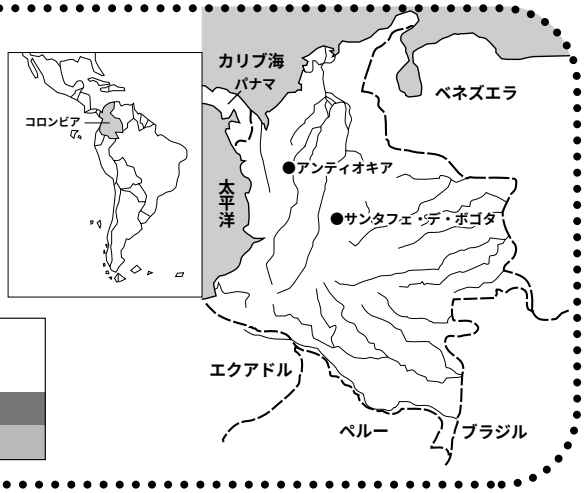
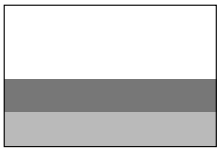
「ユニセフ子ども物語」

地球に生きる子どものくらし

Republic of Colombia

コロンビア





・平和をつかんだ子どもたちの手・

「今こそわたしたちが声を出す時です。ウラバの子どもたちはこの1週間話し合いました。暴力による争いがどんなにわたしたちを苦しめているか、そして平和を、みなさんにうったえます。」

青空から大つぶの雨が降ってきたように思えた音は、会場からわきおこった拍手でした。4月のあたたかな日の光の中、ウラバの子どもたちの宣言を発表したファルリス（15歳）の声は、コロンビアに平和をめざめさせようとしていました。

●●●●●●

コロンビアはゲリラや麻薬マフィアによる暴力があふれていました。人が殺されたり、子どもがゆうかいされたりするのは、どこか遠くの話ではなく自分の町で起こることでした。人びとはくり返される暴力をおそれ、そして疲れはてていました。そんな中、ファルリスの住むウラバ地区で各学校の生徒会から集まった5000人の子どもたちが、暴力や子どもの権利について話し合い、平和を求める声をあげたのです。

1週間にわたり町は平和を求める子どもたちの声でいっぱいになりました。手づくりのポスターがはられ、古いシーツは横断幕や旗になって平和のメッセージを伝えます。子どもたちの手書きのちらしが手から手にわたり、平和行進をする子どもの列にいつのまにかおとなたちも加わっていました。

そして、最終日にファルリスはウラバの子どもたちの平和宣言を読み上げたのです。

●●●●●●

ファルリスたちの運動は、平和のための活動をしていた人びとをおどろかせました。「子どもたちは平和をつくる主役になれる。」

そして、ユニセフや多くの団体が協力し、各地で子どもたちの平和のための運動がおこりはじめました。子どもたちがつくった平和の歌が流れ、劇が上演され、平和行進が行われました。8月31日から9月6日までの「平和週間」のときには、コロンビア全土が平和を願うろうそくの灯でおおわれました。

子どもたちはこの平和運動の中で、自分たちには平和に健康にくらす権利があるんだ、ということを学びました。そしてその権利が守られるように自分たちにもっとできることはないかと考え出したのです。

●●●●●●

自分たちが求める権利を投票して、子どもたちの意見をはっきりあらわそう、というアイディアが広がりはじめたのは、そんなときでした。ファルリスは、ほかの多くの子どもたちと同じく、このアイディアに心おどらせました。

けれども「子ども投票」への道のりはそんなに楽ではありませんでした。

「子どもに投票なんてできるの？」

「投票に行く子どもたちが襲われたりしたらどうするんだ。」

でも、ファルリスはあきらめられませんでした。ユニセフの事務所をなかまといっしょに訪れたファルリスは、ユニセフ・コロンビア事務所のセシリオ所長にこううったえたのです。

「もし投票ができないというのなら、わたしたちはおとなにばかにされたことになる。」

これをきっかけにすべてが動きはじめました。政府も協力してくれることになり、まず投票用紙がつくられました。投票用紙は、生きる権利、健康にくらす権利、暴力から守られる権利 など12の権利に、小さな子どもでもわかるような簡単な説明がつけられてデザインされました。子どもたちはその中で一番大切だ、一番ほしい、と思っている権利にしるしをつけて投票するのです。

投票日は10月25日になりました。投票を知らせるポスターがはられ、テレビやラジオもこの投票を知らせました。そして、投票に行く子どもたちの安全を守るために、投票日には暴力も争いもやめよう、と呼びかけられたのです。

●●●●●●

1996年10月25日。ぬけるように広がった青空の下、投票が行われる500の町は子どもたちであふれかえっていました。小さな子も大きな子もみんな投票用紙をもらって、真剣に、そしてとてもうれしそうに、投票をしていきます。1日でコロンビアの270万人の子どもたちがこの投票に参加したのです。投票の終わった子はどこかほこらしげです。そして、夕焼けが空をそめる投票時間の終わりまで、一日、銃声がひびくことはありませんでした。

（ユニセフ・コロンビア事務所“Movement of Children for Peace”より　文・構成 日本ユニセフ協会）

平和をつくる主役になった子どもたち

◆コロンビアの現状◆

コロンビアは、いくつものゲリラ組織や巨大な麻薬カルテルが政情不安を招き、多くの子どもたちがさまざまな暴力に巻き込まれています。毎年3万人が殺され、世界の誘拐事件の半分はコロンビアで起きています。ほかにも

- 1985年～1995年までの10年間に34万人の18歳未満の子どもたちが、暴力を逃れて家をすてた
- 約1700～2200人の13～17歳の少年少女がゲリラの部隊に入れられた
- 準軍事組織に在籍するうち3分の1は18歳未満
- 高校を卒業した18歳未満の子ども約5000人が徴兵されている
- ゲリラ組織に関係したことのある子どもへの調査結果

1人以上の人間を殺したことがある	：	18%
だれかが殺されるのを見たことがある	：	60%
誘拐に加わったことがある	：	12%
だれかに向けて銃を撃ったことがある	：	83%
自分も死ぬと思ったことがある	：	91%

こうした武力を用いた争いが子どもたちの権利を奪っているのは明らかです。また、こうした風潮が暴力的な文化を生み、子どもたちの成長に悪影響を与えているのです。

©UNICEF/90-0024/Ellen Tolmie

◆「子ども投票」の結果◆

投票用紙

（訳）

A 生きる権利	D 健康にくらす権利	G 不法に働かされない権利	J 子どもが最優先に考えられる権利
B 教育を受ける権利	E 多義性が認められる権利	H 自由に表現する権利	K 平和への権利
C 家族の愛情や保護を受ける権利	F 障害のある子どもは特別に守られる権利	I 暴力や虐待、麻薬から守られる権利	L 公正にあつかわれる権利

1996年10月25日に行われた子ども投票には7歳から18歳までの子どもたちが参加しました。投票には左のような投票用紙が使われ、12の権利は子どもの権利条約からまとめられました。

投票の結果、全体の25%の子どもたちが、生きる権利に投票しました。以下20%が平和への権利に、11%が家族の愛情や保護を受ける権利に投票しました。

また、地域によって、投票された権利に差があったことも注目されました。アンティオキアやセザール、コルドバなどの地域では、生きる権利が非常に高い割合を占めたのに対し、ボイアカでは健康的にくらす権利が最も高い割合を占めました。同様に、教育の権利や不法に働かされない権利、多様性が認められる権利などが高い地域もありました。これらの意見はそれぞれの地域で子どもたちがどのような問題をかかえているかを如実に映し出したのです。

©UNICEF

◆子ども投票のその後◆

©UNICEF

1996年にノーベル平和賞を受賞したジョゼ・ラモス・ホルタ氏に、コロンビアの子どもたちの運動を報告。その後、コロンビアの子どもたちはノーベル平和賞候補に…。

投票は、平和な国で健やかにくらしたい、という子どもたちの要望がはっきりとあらわれたかたちとなりました。子ども投票後の11月14日から30日まで首都ボゴタでは、子どもたち100人が集まり、子ども平和サミットも開かれました。

ファルリス(15歳)はもう一人のなかまとともに、ニューヨークでこの子どもによる平和運動と子ども投票についてユニセフや世界の人びとに向けて発表しました。

子ども投票の結果はコロンビアの大統領に手渡され、さらに翌年の地方選挙に引き継がれました。1997年10月26日の選挙では1000万人のコロンビア国民が子どもの求めた平和への約束を守ることを支持したのです。そしてこの投票を契機として、18歳未満の子どもの兵役が禁止され、ゲリラ組織もこれを守るよう求められました。

コロンビアの子どもたちの一連の行動は、コロンビアに大きな平和への波をもたらしたと評価され、1998年のノーベル平和賞の候補になったのです。